|  |
| --- |
| MS-WordによるMoodleMoot Proceedings原稿作成ガイド  （第5.0版） |
|  |
| 松木孝幸†1 |
| 所属 |
|  |
| これは、MoodleMootのProceedingsの原稿を、MS-Wordを用いて作成し提出するためのガイドである。ここでは、原稿作成のためのMS-Wordテンプレートファイルについて解説している。また、このパンフレット自体も会議録原稿と同じ方法で作成されているので、雛形として参照されたい。**日本語で書かれた論文の場合、英語抄録と題名も書く必要がある。査読の第一段階として英語抄録と題名を確認する。もし、英語の誤りが散見された場合は即却下とされ、再投稿の機会も失われる。提出された原稿はそのままPDFファイルにされるので、厳密な原稿の校正をお願いします。** |
|  |
| How to Typeset Your MoodleMoot Proceedings in MS-Word  (Version 5.0) |
|  |
| TAKAYUKI MATSUKI†1 |
| Affiliation |
|  |
| This manuscript is a guide to produce a final camera-ready manuscript of a PDF to be submitted to MoodleMoot Proceedings using MS-Word template file. Since the manuscript itself is produced with the MS-Word template file, it will help reduce time required for formatting and production of the final proceedings draft. This paragraph is for a bilingual abstract of 400 characters in Japanese and 200 words in English. Your final .pdf will be printed “as is” so be sure to have a colleague proofread your earlier drafts. This includes poster presentations, workshops, lightning talks and keynote addresses. For Japanese papers, the English language abstract MUST be polished and mistake free. This is the FIRST part that will be reviewed and the paper may be instantly rejected if the quality of the abstract is poor. In this case, resubmission will also be prohibited. |

# はじめに

　日本ムードル協会は、将来国際的な雑誌とするために、日本ムードルムートのProceedingsを日本ムードル協会全国大会発表論文集（Proceedings of MoodleMoot Japan Annual Conference）として発行する。すべての著者はこのファイルを用いて論文を作成する。

# 投稿まで

　MoodleMootのProceedingsの作成から投稿までの流れは、次の通りである

1. テンプレートファイルの取得

MS-Wordによるテンプレートファイルは<https://moodlejapan.org/>よりダウンロードする。不明な点があれば、協会事務局(editor@moodlejapan.org)に相談していただきたい。

1. 原稿の作成

MS-WordファイルからWordファイル（研究報告用原稿）を1つ作成する。

1. 原稿とファイルの送付

学会へはテンプレートから作成した原稿を協会事務局([editor@moodlejapan.org](mailto:editor@moodlejapan.org))に送付する。

# MS-Wordテンプレートファイルの使い方

## ページ設定

　以下のようなページ設定を行っている。

1. ページの余白

ページの余白は、上：22mm、下：25mm、左：17mm、右：17mmとする。

1. 2段組の「文字数と行数」

2段組の文字数と行数は、文字数：26文字、行数：48行とする。

## フォント

　フォントは游ゴシックとし、表1の指示に従い、文字サイズや文字列配置を設定する。

表 1　本テンプレートファイルでのフォントとサイズ

Table 1　Set of Font and size in template file.

|  |  |  |  |
| --- | --- | --- | --- |
| 用途 | フォント名 | 文字  サイズ | 文字列  配置 |
| 表題 | 游ゴシック（太字） | 14pt | 中央  揃え |
| 本文 | 游ゴシック | 9pt | 両端  揃え |
| 概要 | 游ゴシック | 8pt | 両端  揃え |
| 著者名 | 游ゴシック | 12pt | 左揃え |
| 節の  見出し | 游ゴシック（太字） | 11pt | 左揃え |
| 小節の  見出し | 游ゴシック（太字） | 9pt | 左揃え |
| 番号付きの箇条書き | 游ゴシック（太字） | 9pt | 両端  揃え |
| 黒丸の箇条書き | 游ゴシック | 9pt | 両端  揃え |
| 図表番号の題目 | 游ゴシック | 9pt | 中央  揃え |

## 表題などの記述

**表題**

和文ならびに英文の表題を罫線内に記述する。

**著者名と所属**

各著者の所属を第一著者から順に罫線内に記述する。

**概要**

和文ならびに英文の概要を罫線内に記述する。

## 見出し

　節の見出しを記述する場合には、段落前に1行の空白行を記述すること。なお、スタイル「#見出し1 MAJ」を適用した節の見出しは2行を占めて出力される。

## 文章の記述

**句読点**

句点には全角の「 。 」、読点には全角の「 、 」を用いる。ただし英文中や数式中で「 . 」や「 , 」を使う場合には、半角文字を使う。

**全角文字と半角文字**

全角文字と半角文字の両方にある文字は次のように使い分ける。

* 括弧は全角の「 （」 と「 ）」 を用いる。但し、英文の概要、図表見出し、書誌データでは半角の「 (」 と「 )」 を用いる。
* 英数字、空白、記号類は半角文字を用いる。ただし、句読点に関しては、前項で述べたような例外がある。
* カタカナは全角文字を用いる。
* 引用符では開きと閉じを区別する。 開きには ‘ ‘（‘‘）を用い、閉じには ’ ’ （’’）を用いる。
* 本文中、専門的な略語を使用する際は 専門的な略語を使用する際は、初出時に正式名を書き、それに続いて略語を括弧内示す

## 参考文献リストの作成

* 参考文献リストには、原則として本文中で引用した文献のみを列挙する
* 参考文献は、論文等の最後に著者苗字のアルファベット順で一括する(和文誌・英文誌で分けない)。
* 参考文献の表記はAPA形式第6版で作成する。英語文献を用いる場合は、英語版のフォーマットの2.6 About referencesを参考にする。
* 本文中での参考文献の引用は、次のようにする．

　　(例) YAMADA(2008a)は………

　　　　　SUZUKI（2008）は………

　　　　　………といっている（YAMADA 2008b）

　　　　　………といっている（鈴木 2008）

なお、著者人数によって、下記のような表記とする。

単著の場合、（山田 2008）および（YAMADA 2008）

二名の著者の場合、(山田・鈴木 2008）および（YAMADA and SUZUKI 2008）

三名以上の著者の場合、(山田ほか 2008）および（YAMADA et al. 2008）

* 本の場合

　著者名 (出版年). 書名. 出版者, 総ページ数, (シリーズ名, シリーズ番号), (総ページ数).

* 雑誌の場合

　著者名 (出版年). 論文名. 雑誌名. 巻数, 号数, はじめのページ-終わりのページ.

* webサイトの場合

　著者名 (更新年). ウェブサイトの題名. 入手先 (URL), 閲覧日

* 査読付き論文の場合、参考文献数は10か20論文程度が望ましい。ワークショップやプラグインのデモンストレーションではそれよりも少なくなる可能性があり、Moodle Docsに関連する論文は5論文未満にする。
* 著者自身の論文を引用しすぎない。

## 謝辞

　謝辞を記載する場合には、参考文献の直前に挿入する。

## 付録

　付録がある場合には、参考文献の直後に引き続いて記述する。

# 投稿前のチェックリスト

投稿の前には以下の内容を著者自身が確認する。

・読者にとって研究の新規性、有用性、信頼性が理解できるように論述する。

・読者の負担にならないように、内容の連続性や背景やテーマが明瞭になるように、読みやすい論文を作成する。

・ケーススタディや組織特有の問題を論じる場合には、十分に詳細を記載する。また、論文の最後で研究の限界についても記載する必要がある。

・考察曖昧である、適用性、限界、論点が適切ではない、結論が内容を反映していない場合、論文を再考する。

・口語表現はしない。

・論文の最後では結論を誇張せずにまとめる。

・英語抄録のネィティブチェックは必ず実施する。日本語で書かれた論文の場合、英語抄録と題名も書く必要がある。査読の第一段階として英語抄録と題名を確認する。もし、英語の誤りが散見された場合は即却下とされ、再投稿の機会も失われる。

・日本語での投稿の場合、査読付き論文では7000字以上10000字以内に内容をまとめる。やむを得ず超過する場合は編集担当に連絡する。